

# 「新型コロナウイルス感染拡大に関連した実践活動及び研究」成果報告書

## 1. 実践活動・研究の名称

COVID-19 感染拡大に関する超多国間心理学研究：日本ブランチの活動

## 2. 実践活動・研究の成果

### (1) グループ代表者

①氏名：石井辰典

②所属・職名：早稲田大学理工学術院総合研究所・次席研究員（研究院講師）

③構成メンバー（ 3 ）人

氏名：国里愛彦

所属・職名：専修大学人間科学部心理学科・准教授（申請当時の所属・職名。現在：同大学学部学科・教授）

氏名：角南直幸

所属・職名：University of Delaware, Department of Psychological and Brain Sciences・Graduate Student（現在：Delaware Data Innovation Lab・Data Science Fellow）

氏名：井隼経子

所属・職名：九州大学アドミッションセンター・准教授（現在：福岡工業大学教養力育成センター・准教授）

### (2) 実践活動・研究の成果

- ・4000 字程度で記してください。図表を入れる場合は、数点程度としてください。
- ・復興にどのような貢献をしたか（する可能性があるか）を明確に記述してください。
- ・成果に基づいて論文投稿や学会発表を行った場合は、そのリストを付してください。
- ・学会ホームページで公開しますので、著作権やプライバシーの保護にご留意ください。

本研究は、COVID-19 の流行に関わる心理過程を検討する国際マルチラボプロジェクトに参加し、日本人データを収集することが目的であった。

2020 年初頭から始まった COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の大流行以来、社会では他者と物理的距離を取ることが推奨され、コミュニケーションの取り方も変化するなど、人々は大きな日常生活の変化を経験してきた。このような状況は、人々の心身に大きな影響を及ぼしていると考えられる。例えば、COVID-19 感染への不安・恐怖を継続的に経験する、他者・社会との接点の減少に伴い孤独感が高まるといったストレス状況に人々は置かれていると予想され、このことが、気分の落ち込みや免疫システムの不活性などの悪影響をもたらしているかもしれない。

こうした事態にあって、COVID-19 流行に関わる心身状態の調査や、その状態をポジティブなものへ促進させる方法の検討は重要な研究課題であり、今心理学者が取り組む

べき課題と言えるだろう。特に、社会への影響が大きい課題であるだけに、“再現性の危機”をはじめとする研究の信頼性の問題をクリアしつつ、取り組む必要がある。そして国際的マルチラボ研究は、こうした基準に照らして、信頼の置ける知見を生み出す方法であると考えられる。というのも、世界中の国々で同一マテリアル・同一方法で多数の参加者を集めるこの方法は、特定の文化的・地理的要因を評価したり、逆にそうした要因に影響されない共通傾向を把握したりすることができ、得られた知見が果たして文脈依存的なものであるのかの査定が容易である。またオープンサイエンスや事前登録研究を実施するケースが多く、再現性問題に関わる問題が克服されている。

本研究では、2つの国際的マルチラボ研究に参加し、それぞれに約2000人の日本人参加者のデータを提供した。1つ目の研究は、Psychological Science Accelerator (以下、PSA) が主催する PSA COVID-Rapid (PSACR) と呼ばれる研究プロジェクトであった。このプロジェクトには PSACR001-003 までの3つの研究が実施されている。まず PSACR001 は、利益と損失のリフレーミングの違いを参加者間比較することで、利益の観点から情報をリフレーミングすることが行動変容に及ぼす効果の検証が目的である。これまでの行動科学の知見では、利益（つまり、感染を回避できる、それによって命を救うことができる）という観点から情報をリフレーミングすることは、損失（つまり、感染してしまう、それによって命を失う）という観点から情報をリフレーミングされるよりも行動を動機づけることが指摘されている。これを手洗いや社会的距離をとることなどの行動変容に適用しようというわけである。次に PSACR002 は、COVID-19 に伴うネガティブ感情の低減に対する認知再評価方略の効果を検証するものである。これは、感情心理学において、ネガティブ感情の調整方略として様々提案されているが、特に認知再評価（経験する感情の意味を再評価することで感情の悪影響を低減する）の有効性が指摘されてきていることに基づいている。最後に PSACR003 では、支配的なメッセージよりも自律-支持的なメッセージが行動変容の促進に有効であることを検証するものである。自己決定理論では、人は自律-支持的なメッセージ（他者が自らの判断である行動を選ぶように促すメッセージ）は、行動変容の価値を理解し、内在化するのを助け、動機づけを高めることができる一方、支配的なメッセージ（権威的な立場からある行動を取るよう命じるメッセージ）は、そのような内在化を阻害し、行動変容を促さないか、あるいは逆効果であるされる。したがって、COVID-19 に伴う行動変容においても自律-支持的なメッセージが有効であると考えられる。

申請者らは、2020年4月より PSACR に参加し、001-003の研究マテリアルの翻訳・逆翻訳・文化調整を実施し、同8-10月にデータ取得を実施した。その結果2219名の日本人成人のデータを提供した。なおこの数字は、PSACRに参加した87の国・地域の中で、アメリカ合衆国の研究者が収集したデータ数2238名に次ぐ人数であった。こうしたデータを用いた研究成果は、既に論文化され、プレプリントとして、あるいは国際誌に投稿・採択されて公開されている。例えば、PSACR001は現在ある国際誌に投稿され、査読を受けているが、その内容は *PsyArXiv* にて公開されている (Legate et al., 2021)。また PSACR003 は *Nature Human Behaviour* 誌に既に採択され公開されている (Wang, Goldenberg, & Dorison et al., 2021)。PSACR002についても現在国際誌に投稿中であると報告されている。いずれの論文においても、申請者らは共著者として加わっている (コンソーシアム・オーサーシップ)。

申請者らが参加した 2 つ目の国際的マルチラボ研究は、Marta Kowal (University Wroclaw, Poland) の主催する Large-scale study と呼ばれるプロジェクトであった。このプロジェクトの目的は、いわゆる“コロナ禍”における対人魅力や配偶者選択の方略等について、多数の国や地域での傾向の相違点・共通点を調査することであり、2021 年 2 月にプロジェクトへの参加者の募集が行われた。申請者らの一部(石井・国里)は、PSACR でのデータ取得後も助成金に残額があったことからこのプロジェクトへ参加し、日本のデータを提供することとした。2021 年 3 月より研究マテリアルの翻訳・逆翻訳が始まり、43 の言語 (175 の国と地域) へと翻訳され、同 4 月よりデータ取得が開始された。申請者らは日本人成人 1734 名から回答を得ることに成功した。既に主催者の Marta Kowal 氏よりこのデータを用いた論文の初稿が研究プロジェクトに参加した研究者らに共有されており、現在、共同で加筆・修正が行われている状態である。申請者らも共著者として加わる予定である。

以上の通り、本研究は 2 つの国際的マルチラボ研究それぞれにおいて、約 2000 人の日本人回答者のデータを取得した。こうした活動は、直ちに COVID-19 流行の抑制や、人々の心身健康の増進に役立つとは限らない。しかしこの活動で得られる知見は、いくつかの点で重要な役割を果たし得るだろう。第一に、本研究は、人々に新たな行動・習慣を身につけてもらう際にどのような方略が有効であるかについて、信頼できる心理学的知見を提供するだろう。例えば PSACR が実施した研究は、人間の心的傾向を踏まえ、その行動を変容させたり感情をコントロールしたりする術について有益な方法があることを明らかにしている。こうした方法は、COVID-19 変異株の流行の危機がある現在においても役立つはずであるし、今後、未知の新たな感染症が流行したときや地震等の災害が起きた際にも活用可能であろう。第二に、今回の国際的マルチラボ研究への参加は、日本においてどのような方法が新たな行動・習慣の確立に有効であるかを知るのに役立つと言える。一般的に、ある文化圏で得られた知見がどの程度文脈・文化依存的であるかを評価することは難しいが、国際的マルチラボ研究は、この点を明らかにするのに効果的であると言える。そして、こうした研究に日本の研究者が参加することで、日本人にとって有効な方略を明らかにすることが可能になるだろう (参加しなければ、他国の研究者がマテリアルを日本語に翻訳し、日本でデータを取ることは極めて低い)。

#### 成果リスト

- Wang, K., Goldenberg, A., Dorison, C.A. et al. (2021). A multi-country test of brief reappraisal interventions on emotions during the COVID-19 pandemic. *Nature Human Behaviour*. 5, 1089-1110. <https://doi.org/10.1038/s41562-021-01173-x>
- Legate, N., Nguyen, T. T., Weinstein, N., Moller, A. C., Legault, L., Maniaci, M. R., ... Primbs, M. (2021, May 30). A Global Experiment on Motivating Social Distancing during the COVID-19 Pandemic. *PsyArXiv*. <https://doi.org/10.31234/osf.io/n3dyf>

## 「新型コロナウイルス感染拡大に関連した実践活動及び研究」会計報告書

活動・研究名称	COVID-19感染拡大に関する超多国間心理学研究：日本ランチの活動	
代表者 氏名・所属	石井 辰典	早稲田大学 理工学術院総合研究所 次席研究員（研究院講師）

1. 助成額	¥320,000
2. 支出合計	¥287,044
(1) 機器・備品	
1)	
2)	
3)	
(2) 消耗品	
1)	
2)	
3)	
(3) 旅費・交通費	
1)	
2)	
3)	
(4) 謝金	
1)参加者募集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関するアンケート参加者募集（1）	¥1,100
2)参加者募集：新型コロナウイルス感染症に関する国際的アンケート調査：回答用タスク（1）	¥8,747
3)参加者募集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関するアンケート参加者募集	¥5,192
4)参加者募集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関するアンケート参加者募集_2	¥1,100
5)参加者募集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関するアンケート参加者募集_3	¥3,065
6)参加者募集：新型コロナウイルス感染症に関する国際的アンケート調査：回答用タスク	¥79,918
7)参加者募集：新型コロナウイルス感染症に関する国際的アンケート調査：回答用タスク2	¥24,367
8)参加者募集：新型コロナウイルス感染症に関する国際的アンケート調査：回答用タスク3	¥21,930
9)参加者募集：新型コロナウイルス感染症に関する国際的アンケート調査：回答用タスク4	¥11,827
10)参加者募集：対人関係に関する国際的アンケート：回答用タスク（1）	¥62,599
11)参加者募集：対人関係に関する国際的アンケート：回答用タスク（2）	¥60,795
12)参加者募集：対人関係に関する国際的アンケート：回答用タスク（3）	¥6,404
(5) その他	
1)	
2)	
3)	

※ 領収書は各費目ごとにA4用紙に貼付し、通し番号を付けてください。